

日本災害医療ロジスティクス研修

～ 組織の枠を越えたロジ研修 ～

全国初の組織の枠を超えた災害医療ロジスティクスの為の大規模研修として平成25年度より毎年開催している研修で、実践的な災害医療ロジスティクス研修としては、国内最大規模になります。

被災地に支援に入る医療チームとして、情報収集・管理、現地到達、活動環境の確保といったロジスティクス能力の向上を目的として、岩手県内の各拠点を会場に、フルスケールの実践研修を行っています。

大規模災害発生時は様々な組織から医療支援チームが被災地入りします。災害の影響を受けた被災地内において医療活動を行うにはロジスティクス能力の充実が鍵を握ります。2011年3月11日の東日本大震災時、大地震と津波により被災地は大混乱に陥りました。いくつかの医療支援チームもロジスティクス面の不足により十分な活動を行えなかったという報告もあがっています。この研修では、被災地内の災害医療分野におけるロジスティクス能力のスキルアップを目的とします。



▶日本災害医療ロジスティクス研修の内容

研修では次の3項目に重点をおいた災害医療の講義を行っています。

- ①ロジスティクスの基礎
- ②各拠点での本部立ち上げと本部内におけるロジスティクスの役割
- ③多組織間の連携

国内の第一線で活躍されている講師の方々より、熊本地震の活動等の最新情報や東日本大震災時の状況も織り交ぜながら講義頂いています。

また、被災地ではインフラ機能が麻痺している場合が想定されます。そのような状況下でも円滑な医療救護活動を遂行するために、必要な情報通信ツール（衛星電話、トランシーバー等）の設営・使用できるように実機を使用した体験実習を行います。

その後、実践研修に向けて、被災地派遣されえることを想定し準備から出動、撤収までの机上シミュレーションを行います。

実践研修では、派遣先の確定後にグループごとに活動戦略を策定。チームビルディングや資機材の調達やカウンターパートの確認などを行います。

その後調達した車に分乗し、実際に岩手県沿岸部まで移動します。各拠点に到達後は本部を設営し、活動場所や通信環境を確保。その後衛星電話等を使用し医療救護班調整本部や各組織と連携を取りながら、被災地内の情報収集や物資調達、避難所のアセスメント等のミッションを行います。

途中、余震発生による安否確認のイベントなども織り交ぜながら、翌朝の引継ぎ・撤収を行い、災害時地域医療支援教育センターに戻り、実践研修の報告会・パネルディスカッションで研修の振り返りを行います。



▶日本災害医療ロジスティクス研修の開催実績

研修の開催実績は以下の通りです。

- | | | | |
|-----|-----------------------|----|-------|
| 第1回 | 平成25年10月14日(月)～16日(水) | 開催 | 81名参加 |
| 第2回 | 平成26年7月24日(木)～26日(土) | 開催 | 59名参加 |
| 第3回 | 平成27年7月16日(木)～18日(土) | 開催 | 59名参加 |
| 第4回 | 平成28年8月24日(水)～27日(土) | 開催 | 60名参加 |

